

# 首都圏で話題、名所などテーマ

地域の名所などをテーマにしたカプセルトイ「ご当地ガチャ」が首都圏で話題を呼んでいる。地元民だけが知るローカルネタを題材にしたものから、観光客にも喜ばれる商品まで、各地域が工夫を凝らしたガチャの開発に取り組み、地元愛の醸成や、外部に地域の魅力を発信する機会につなげようと知恵を絞っている。

毎年元日に放送するテレビ埼玉の名物番組「埼玉政財界人チャリティー歌謡祭」や、スーパーオートバックス大宮バイパス店内のお笑いステージ「爆笑！お笑いボックス」。地元民だからこそ分かるネタを題材にした「大宮ガチャ」の第4弾が15日、新たに登場する。中身は約5センチのアクリルキーホルダーで、地元民のプライドをくすぐり、懐かしさを感じられるラインアップが人気だ。3月に地元老舗店などをモチーフにした第1弾を発売するとSNS（交流サイト）を中心に

## ご当地ガチャ 育む地元愛

話題が沸騰。ツイッターで交換希望を呼び掛けたら、次の商品を予想したりする投稿も見られた。人気を帯び、これまでに約3万個を売り上げた。企画したアルシエ

（さいたま市）の中島祥雄社長は「普段は隠れている地元愛が感じられた。SNSの意見も参考に一緒に作り上げつつ、次は皆さんの予想をどう裏切るのか」と話す。9月の発売時に完売が相次いだ「浦和ガチャ」の第2弾も販売予定だ。埼玉県内での盛り上がりは他地域にも影響を与えている。横浜市では、幕末の生麦事件で知られる

### 観光客にも魅力発信

る生麦地区の商店街関係者らが「生麦トイカプセル」（1個300円）を発売。さいたま市の地域密着ガチャの企画に携わった人物が当地の出身だったことなどから実現したという。地元の名所や店舗に加えて京浜急行電鉄のキヤラ

クターなどのキーホルダーを製作し、京急線生麦駅の改札横に販売機を設置した。10月の第1弾、12月の第2弾に続く企画も検討中で、生麦を盛り上げる活動をしている生麦盛り上げ隊の松野良明さんは「地域に愛着を持ってもらいたい」と期待を寄せる。



「山男ガチャ」は規格外の木の端材を活用した木製雑貨が楽しめる



「大宮ガチャ」はこれまでに3万個を販売した

「地元愛が強い市民に購入してもらい、SNSなどでPRしてもらう狙い」と話すのは千葉県船橋市観光協会の担当者だ。創業140年の「森田呉服店」や「小松菜ハイボール」など、市内の名物を地元のイラストレーターが描いた10種類のキーホルダーを「街ガチャ in 船橋」として企画。市内22カ所ですでに発売した。1個300円だが、新型コロナウイルス禍もあり、自販機はキャッシュレス決済のみ。容器はプラスチックとして廃棄可能な「バイオカプセル」を使い環境にも配慮する。東京都檜原村の「山男ガチャ」では売り物にならない木の端材を活用した木製雑貨が人気だ。木材の伐出・販売を手掛ける東京チェーンソー（同村）が、観光客向けのDIYイベントが開けなくなったのを機に、2020年6月に販売を始めた。ぶんぶんごまやはし置きなど「おもちゃ」「マケネット」「ミニ雑貨」のラインアップをそろえ、「手軽な土産品として観光客に喜ばれた」という。地域の高齢者にも製作を手伝ってもらったとシルバー人材の活躍の場にもつながっている。